

## 冬に去る魚、現れる鳥

11月中頃をすぎると、季節は一気に秋から冬へと変化していきます。この時期になると旧中川の岸边からマハゼが姿を消します。だんだんと海や深場へ移り、産卵の準備をするためです。マハゼの寿命はたった1年で、産卵を終えると死んでしまいます。ただし旧中川ではこの時期でもまだ小さなハゼが少しいて、それらは岸边に残ります。これは、海と直接繋がっていない内部河川ならではの光景かもしれません。

ハゼに変わって水辺を賑わすのが水鳥です。そのうちコサギなどのサギ類やカワウは、1年中見られます。コサギは、体が真っ白で嘴と足が灰色なのが特徴で、水際でじっと魚を待ち伏せします。逆に泳ぎながら魚を追いかけて捕まえるのがカワウです。色も正反対に真っ黒、泳ぎ得意なハンターです。これらは、旧中川の魚を狙って1年中あられ、エサを探しています。それだけ、エサとなる魚が多いのでしょうね。

また、この時期だけ渡ってくる鳥もいます。カモの仲間が中心で、旧中川で多く見られるのはオナガガモ、ヒドリガモ、キンクロハジロです。オナガガモは名前の通り尾が長く、オスは非常に美しいカモです。



KOKOPELLI+ 代表 寺田浩之

ヒドリガモはオスの頭が小豆色で、頭の真ん中にクリーム色の模様があります。目がクリクリしていて可愛い顔つきをしています。警戒心が強いので顔を肉眼で見ると少し難しいかもしれません。これらのカモのメスは一般的に茶色っぽく、地味で区別が難しいですが、オスと一緒に行動していますので、オスで見分けることが可能です。キンクロハジロは目が金（黄色）、体は黒、羽は白いため金黒羽白という名前になりました。頭の後ろにピンとした飾り羽があります。メスは白い部分が茶色く地味な印象となります。これらの他にオオバンもよく見られます。全身が真っ黒で鼻が白いため、他と違いよく目立ちます。バンはカモのように泳ぎますが、実はクイナの仲間です。バンは江戸時代に将軍の鷹狩りの獲物として使われたという歴史もあるようですので、家康も鷹狩りでこの地を訪れた際には、このバンを狩っていったのかもしれない。

水鳥は比較的観察しやすい生き物です。お散歩の際にはぜひ、水面を覗いてみてくださいね。

公益財団法人  
江東区文化コミュニティ財団  
**江東区東大島文化センター**

電話 03(3681)6331  
FAX 03(3636)5825

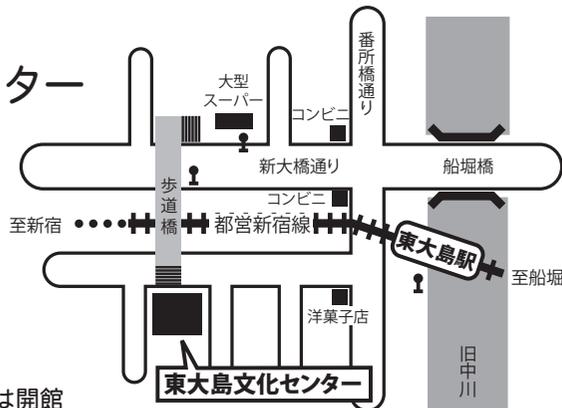
〒136-0072  
江東区大島 8-33-9

【交通】都営新宿線「東大島駅」

大島口より徒歩5分

【休館日】第1・3月曜日休館

ただし国民の休日にあたる場合は開館



# 東大島文化センター ニュース 12

index

page

- ① 迎春展
- ② イベント・年末年始のご案内
- ③ ぶらり小名木川のご案内
- ④ 連載「コラム」



東大島文化センター 2016

第20回 GEISYUN TEN



## 迎春展



1/5(火) ~ 15(金)

東大島文化センター 1階ロビー 入場無料



ロビーにてお正月らしい展示をします。ご来館の際はぜひごらんください。

**新  
春  
華  
展**

1/6(水)~9(土)  
最終日は16時まで  
協力:江東区茶華道会

**ゆ  
り  
え  
こ  
ー  
な  
ー**

1/5(火)~15(金)

**和  
紙  
ち  
ぎ  
り  
絵  
展**

1/5(火)~15(金)  
協力:和紙ちぎり絵  
中野ファミリィ

**書  
初  
め  
展**

1/7(木)~15(金)  
協力:児童習字教室

**新  
春  
画  
展**

1/5(火)~15(金)  
田淵和夫氏による  
和風の展示。

東大島文化センター

# 成果発表会

2日間開催

# スプリングサンデー

2/28 (日)のみ

2/27 (土)



## 合同成果発表会

## スプリングサンデー

東大島文化センターで活動している講座やグループが日ごろの成果を発表します。  
★11:30～★4階レクホール★入場無料

東大島文化センターで活動している講座・グループによる手工芸や茶道などの体験教室を行います。焼きそばなどの軽食販売、フリーマーケットもあります。  
★体験教室の詳細は、カルチャーナビ1月号に掲載

12/12(土) 開催!!

## 年忘れお笑いのふ

2015年12月12日(土) 14:00 開演

出演：おぼん・こぼん、丸山おさむ

はたのぼる、ニックス、青空麒麟児

司会：松田洋子

- ◆全席自由(当日各300円増)
- 一般 1,800円
- 友の会 1,600円
- 受講生 1,600円
- シニア(60歳以上) 1,600円
- 子ども(中学生以下) 800円



## 第120回 大島落語会

2016年1月15日(金) 19:00 開演

東大島文化センター 第1和室



出演 **三遊亭 宗楽 ほか**

◆全席自由(当日各300円増)

※6歳からご覧いただけます

- 一般 1,200円
- 友の会 1,000円
- 中学生以下 500円

## 東大島文化センター 年末年始のご案内

開館  
12/28 月

29 火

30 水

31 木

1/1 金

2 土

3 日

4 月

5 火

6 水

7 木

8 金

開館

年末年始休館

定期休館日

通常開館

〈施設利用自動抽選【1月受付分】エントリー期間〉

12月20日(日)～1月4日(月)

自動抽選対象月・・・レクホール・AVホール→平成28年7月、その他→平成28年4月



## 小名木川

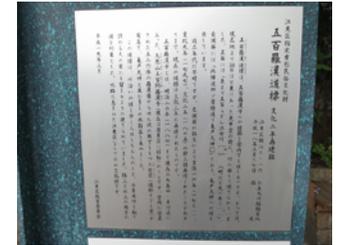
小名木川リバーガイド倶楽部  
会員 山村 浩二郎

## 「奇跡の寺院・・・天恩山五百羅漢を訪ねて」

東陽町から四つ目通りを北へ行くと小名木川に架かる小名木川橋の北詰に五百羅漢道標が建っております。

この道標は五百羅漢寺への道筋を案内する道しるべです。「是より五百羅漢 江右川八町ほど先へ参り」と書いてあり、川沿いの道を歩く人はもちろんのこと小名木川を船で訪れる人の目に留まるように建てられました。

ではこの五百羅漢寺はどこにあったのでしょうか。現在都営新宿線西大島駅交差点角に五百羅漢寺跡の碑があります。多分ここに建っていたのでしょうか。



五百羅漢道標

寺の広さは現在の浅草の浅草寺と同じ約6,000坪はあったそうです。そしてどうしてこのような大きなお寺が現在の江東区大島3丁目に何の目的で創建されたのか、これは海からの災害を防ぐため祈ったのではないとも言われております。

京の黄檗宗万福寺の鉄眼禅師に師事した松雲元慶が五百羅漢彫像を一大発願し、江戸に下ったのは1687年(328年前)、以来十数年の歳月をかけ、五百羅漢像を始めとする536体もの仏像を彫り上げましたが、当初は辛酸を極めたと言われています。

松雲の熱意はやがて人々の心を動かし、やがて時の将軍徳川綱吉の聞き及ぶところとなり、元禄8年(1695年)徳川綱吉より本所五丁目(現在の東大島三丁目)に6000坪あまりの土地と天恩山五百羅漢寺の寺号を賜り、寺が創建されました。しかしひたすら彫像に励んだ松雲禅師はその仏像を納める堂宇の完成を見ることなく病に倒れ、享年63歳で亡くなりました。

当時江戸の地誌である「江戸名所図会」や広重、北斎の浮世絵にも描かれ、江戸の名所として広く知られ、寺は隆盛を誇っておりましたが、やがて江戸末期の度重なる天災や明治維新の廃仏毀釈の嵐に曝され、寺は衰退の一途をたどり、五百羅漢寺は墨田区緑町を経て目黒区の現在地に移転してきたのは明治41年(1908年)のことです。その後30年寺は荒廃を極め住職もいない荒れ寺であったところ、ある時偶然にも通りかかった托鉢の尼僧安藤妙照により見出され、復興の道を歩んで行くことになり、昭和56年(1981年)奇跡的に現代に甦ったのです。現存する305体の羅漢像は「目黒のらかんさん」と親しまれ東京都重要文化財に指定され毎年5体を修復に出しており、1体の修復に180万円かかり都から1体につき90万円の補助が出ているそうです。

305体の仏像を見ると今日考えさせられる言葉が書かれております。私自身一番心に残った言葉は“父の徳行は子のための最上の贈物である”

一度是非機会があったら皆様方お参り頂きたいものです。